

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2297200293		
法人名	(株)アイケア		
事業所名	グループホーム あいの街浜北		
所在地	浜松市浜北区於呂2406-1		
自己評価作成日	平成27年10月9日	評価結果市町村受理日	平成27年12月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JigvosoCd=2297200293-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JigvosoCd=2297200293-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社第三者評価機構		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成27年11月22日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

非常勤職員を含め定着率が高いため利用者の状態観察への対応に秀でており、入居前は歩行状態が悪かったり生活習慣が良くなかった利用者も、穏やかに笑顔のある毎日を送っています。毎月お抹茶会があり、師範が抹茶を点てていて、運営推進会議で地元住民対象として提案した「あいの街浜北フェスタ」では、一般来訪者に手作りおやつとともに師範のお点前が披露され、まるで「あいの街浜北の人」になったかのように嬉しいひと時を過ごしました。また自治会長の進言から、地域密着型の利用案内をおこなう介護相談コーナーをフェスタ内に開設し、また1つ地域への扉が開くことにつながりました。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

開設から6年を経て緩やかにADLの低下もみられ、毎日の暮らしでは散歩を庭での散歩や外気浴に切り替えています。それでも葛狩りや葡萄狩りに農園に行くことは定番となり、お腹がいっぱいになって莫産の上で皆で寝転んでいる写真もありました。少し遠出では島田の薔薇園とお茶の里も楽しい思い出の一つです。要介護4、ほぼ寝たきり状態の利用者も布担架で短時間に一般の貸切バスに昇降でき、この日帰り旅行では横浜在住の家族も現地で加わって「全員集合」となりました。一度断わられても嫌がられない程度にアプローチすることを旨とし、家族も一旦笑顔の場を味わうとリピータとなってくださり、友和が生まれています。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設理念「笑顔のある暮らし」のサブタイトルにもなっている、「声にならない声に耳を傾けよう」重度化での様子観察に充分活用されています。	「先に、明るい」挨拶ができる職員は高定着率を保っています。午前はぬり絵などで過ごし、午後は身体を動かすゲームや体操とプログラム化され、職員は作業と上手に並行させ利用者とふれあう時間をつくっています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している	地域防災訓練の参加、ボランティアさんの受け入れ(毎月2回お茶の先生の訪問)を行っています。	利用者と一緒にの外掃除や敷地内の自然薯掘りでは隣近所から声がかかります。毎年続くフェスタはメインのAED操作講習に焼き鳥や本格的なお茶会も目当てに例年通り地域から大勢が集うことが推測されています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中高生福祉ボランティアの受け入れを実践しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回定期的に開催しています。月ごとの利用状況、企画イベントの報告、事故・ヒアリの報告を行っています。又参加者の皆さんからの助言、質問等意見交換が盛んに行われています。	浜北区役所、高齢者相談センター、シニアクラブ会長、民生委員、自治会長、併設のデイサービスと顔ぶれが豊かなことから、事業所のことだけでなく地区全体の課題に発展することもあり、地域会議のような内容もみられます。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議への参加依頼をさせて頂き、毎回出席して頂いています。介護相談員の訪問もお願いしています。	馴染みのお茶の師範も浜松市のボランティア制度に登録して訪問活動を継続しており、事業所でも制度の利用拡大を視野にいれています。グループホーム連絡協議会にも出向き、ヨコの連携もとっています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全体ミーティング、フロアミーティングで常に話し合い、安全に生活が行われるよう対策への実践、共有を図っています。	玄関、ユニットに施錠はありません。センサーマットは導入してはいませんが、鳴り物で職員を呼ぶ人はいます。トイレトペーパーを干切る癖のある人には「だめ」とは言わず、予めカットされた紙を置き環境を整えフォーカスを替えることで対処しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入浴時の全身観察、表情、精神面での行動変化への観察を常に行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者、ケアマネ、フロア責任者が研修に参加し必要時に活用できるよう努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、基本ご本人同席のもとご説明をさせて頂いています。又入所に対しての不安、疑問点も回答ご説明させて頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時の会話、ご利用者様同士の会話の中から頂いた意見要望を出来るだけ実現できるよう配慮しています。又、イベント等の報告は毎月のお便りや運営推進会議にて報告をしています。	バス旅行では横浜在住の家族は現地で加わり、家族が“全員集合、”となりました。一度断わられても嫌がられない程度にアプローチすることを旨とし、家族も一旦笑顔の場を味わうとリピータとなってくださっています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロアカンファレンスにて各ご利用者様の問題点や外出レク等の話し合いを行い、全体ミーティングにて決定実行をしています。	会議には1人当たり月4時間の手当が用意され、夜勤者を除く職員すべてが全体会議に顔を揃えます。事業所の大イベントのフェスタでは管理者は後方に廻り、職員が経験を通じて学ぶことができるよう支援しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	基本業務をしっかりと確立した上で、個々のカラーを出せる環境を整えています。又各自の良い点は認め合い、悪い点は指摘し合える環境作りを行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修や外部研修への参加を促し個々に応じた介護意欲の向上に努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社内で行われる施設研修や、セクション会議への参加、又連絡協議会への参加意見交換を行う事で質の向上に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	まず寄り添い、言葉に耳を傾け不安への解消を行い、又ご家族との協力の元穏やかな生活の確保の提供に努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所に至るまでのご様子を伺い、ご家族様のご利用者様に対する想いを尊重し問題点の改善に努め信頼関係の構築に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族様と面談をさせて頂き、今とこれからを十分に話し合いご理解をいただいた上でご利用開始に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個人の立場を尊重し、決して一人では無い誰かがそばにいる関係に努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の眩き、ご本人の想いを出来るだけお伝えしご家族でしか出来ない思い行動をお願いしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	高齢の為自身で馴染みの場所への外出はできかねますが、馴染みの方の訪問やご家族付き添いにて掛かりつけ医への受診等お願いしています。	緩やかに重度化へと向かうなか、家族には「今ならまだ…」と行きたい場所へお出かけを促しています。家族に墓参の希望があったことを伝えて実現した例では、偶然に近所での葬儀に列席でき、その後は落ち着いて過ごせるようになっていきます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一つ屋根の下に住むお隣近所との関係の構築に努めています。フロアに出ればテレビを囲み同じ会話を笑顔し、居室への声掛けをし、一人の時間を作って頂くよう誘導させて頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族からの言葉の中からお本人様の状態をお聞きしご相談にお答えしたり、関係機関の情報提供を行っています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日のコミュニケーションの中からご本人が持つ思いや希望を、意思表示の困難な方も接した時の反応やご家族からの情報の聞き取りでご本人のお気持ちに添えるよう、職員がミーティングや毎日の申し送りや共有し、プランに反映するよう努めています。	開設から5年目となり、意向が言葉ですべてでない心身状態となってきましたので、職員が「これいりますか?」「やりましょうか?」と問いかけることが増えています。居室担当が概ね把握していますが、新人には先輩職員のフォローがあります。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始時のアセスメント、日々のコミュニケーションの中から必要な情報を記録し、職員間で情報を共有しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者様の生活の場である事を意識して、日々の状態を観察しています。一日の過ごし方や、感情の変化を把握し、残存機能の維持向上ができるように努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者様の毎日の生活状況、会話の中から職員が気付いた事やご希望をミーティング等で検討し、ご本人にとって最善と思われる方法を計画に反映させるよう努めています。	毎月のフロアカンファレンスに加え、随時ミニカンファレンスをおこなって利用者の変化や課題に対応しています。「汚物の処理でも、まず本人に確認する」など、家族には書面に記載されない細かい説明もおこなっています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に日々の様子変化等の記録を介護記録に記入し共有しています、又個々のカンファレンスを開催し、ケア内での気づきや変化を話し合い、介護計画への見直しを行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況変化には出来るだけ早く、ご本人、ご家族と話し合い、合意の上で必要な支援が導入できるように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の公的機関や自治会との交流を積極的に行うと共に、ご利用者様と地域住民参加型やボランティアを招いてのイベントを開催しています。高齢者が利用しやすい飲食店や公共施設の把握にも努めています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族様の希望の元ご家族付き添いでの受診、又施設提携医の月1回の往診、緊急時随時の往診、受診対応の医師への移行を行って頂き支援しています。	在宅からのかかりつけ医、事業所の協力医ともに往診くださいます。ただし軽度の場合は外来受診ということになっていて、1名が家族の付き添いで診察を受けています。他の専門医も受診は家族にお願いしています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	精神面、身体面での体調の変化を速やかに看護師・責任者へ報告を行い、医師からの適切な意見を頂いたき、受診往診への手配を行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院に至るまでの施設内での情報提供を行っています。入院中も病院での様子また退院後の注意点等を病院関係者と情報交換を行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時、急変・緊急時の対応を十分に話し合い、医療処置が必要で無い状態の終末期の受け入れは可能であるとの説明を行っています。職員は、施設内での看護、医師連携の元終末期看取りを経験をしています。	昨年初めての看取りに取組み、貴重な体験となりました。職員も夜勤帯が怖いもいて悩ましい部分もありましたが、夜間ではなく、また老衰状態でかつ往診医の訪れた直後での穏やかなお見送りでした。次につなげるべく祈りのカンファレンスもおこなっています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	社内で急変・緊急時の対応、処置を研修に取り入れて実践に努めています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行い周知徹底しています。又運営推進会議で地域の避難方法、協力を仰いでいます。	年2回の法定訓練のほか、図上訓練や連絡網の一斉メールもおこない、本年は新人職員に通報役を担当してもらいました。開設時から設置のAEDは全ての職員が操作できるようになることを課題として残しています。	一昨年からの取組みとして地域防災訓練には職員が参画していますが、さらに1歩進むことを期待します。 (例. 自主防の隊員に運営推進会議に出席してもらう)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	暮らしの中で一人一人の心の想いを理解し、何気ない声掛けの中にも必ずそこにその人が居る対応に努めています。	「じいじ」と呼んで反応があれば家族の許しを得て呼称とすることもあり、尊厳を守りつつも柔軟な対応です。また認知症の進行に伴い鏡など独りとなる居室内では危険があるものは家族の了解を得て撤去しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	集団生活の中で、我慢をお願いすることはありますが、日常生活の中で個人の空間を楽しんで頂けるよう配慮しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調などを把握し無理の無い範囲での活動を支援させて頂いています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に一度訪問理美容の依頼をお願いしています。外出時や入浴時衣服をご自分で選んで頂いたり、又鏡を見ながら化粧水をつけられたりと様々な支援をしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の食事形態、嚥下状態を確認し提供しています。又下膳は一人一人にお願いします。食事量の確認を職員と一緒にしています。手前味噌、干し柿等保存食作りもレクの一環として行っています。	常にはメニューとともに食材が業者から届き職員が調理しますが、梅ジュースや味噌は協働作業での手製で恒例行事となっています。介助に入る人以外の職員は見守りで食事は同じテーブルではしていません。	車いすのまま食事を摂る利用者が3名いますので、改めて椅子への移乗を阻むものについて協議することを期待します。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事以外10時15時入浴後と水分補給の時間を設け摂取して頂いています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは必ず行っています。お一人では無理な方への介助や、又舌の洗浄には力を入れており声掛け介助をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご利用者様の半数以上がリハビリパンツ・おむつ着用であるが、自力排泄可能な方へは時間を決めりハパン、パットの確認を、介助の必要な方へは定期誘導、おむつ交換をさせて頂き、残存機能の維持を図っています。	車いすがスムーズに入れるものを含みトイレは3箇所あり、跳ね上げ式の手すりを活用して出来る限り立位が保てるようにしています。移乗時には「もっと前にいきましょう」など、安易に手を出すことなく自力での重心移動を促しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	なるべく薬に頼らない方法を取っています。サツマイモ、寒天等食物繊維の摂取、歩け×歩け運動をレク時行い、又入浴時の腹部マッサージを行い予防に取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回の入浴日を設けています、体調の悪い時は入浴日の変更や清拭にて様子を見させて頂き、気が進まない等拒否が見られる時は、時間を空けお誘いを行ったり日を改めるなどの支援をしています。	ほぼ寝たきり状態の利用者も布担架で湯に浸かる喜びを味わうことができ、この方法は本年の日帰りバス旅行で安全に一般の貸切バスに昇降できることに実を結んでいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	プライバシーの保てる個室の提供、汚染時を除いた週1回のシーツ交換や、寒暖に伴うお布団の調節を行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	任診時主治医に用法、副作用の説明を頂き、目的・用量についての理解に努め、配薬、服薬時には名前、用量を職員同士でのダブルチェックを徹底しています。又服薬にて体調の変化が現れた時はすぐに主治医への連絡を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	新聞、雑誌、テレビ、洗濯干し、洗濯物をたたんで頂く、又、味噌作り、干し柿作りと日常生活の中で又季節の中で気分転換を楽しんで頂くよう支援を行っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	裏庭のお花を見に行ったり、ミニピクニックと称し、お昼ご飯やおやつを裏庭で楽しんで頂いたり、又季節でイチゴ狩り、ブドウ狩り、みかん狩り、花菖蒲園、紅葉狩りの外出レク、又ご家族同行にてバス旅行を行っています。	苺も葡萄も出かける農園は定番となり、お腹がいっぱいで莫産の上で皆で寝転んでいる写真もありました。少し遠出のバス旅行では薔薇園とお茶の里も楽しい思い出の一つです。ADLの低下に伴い散歩が難しくなり、庭の散策や外気浴に切り替えています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は基本施設側にて行わせて頂いています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者様よりのご要望には都度対応はさせて頂いています。暑中見舞い、年賀状はレクの一環として定着しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロア内に快く響く庖丁の音、季節感を感じて頂くような飾りつけ、銭湯気分を味わって頂くよう富士山の絵、不快な臭いが出ない様トイレ内汚物処理の徹底、空調設備に頼らない季節を感じて頂くような環境作りに努めています。	日々の掃除で漏れてしまうようなエリアも大変キレイで、隅々まで清潔です。特にトイレは臭いの素となるとして、徹底しています。季節の風物詩的な作品や掲示も至るところにありますが、雑多な印象がなく気持ちの良い空間です。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様の間で「空いたでどうぞ」と声を掛け合うほど定着した畳スペースでの足のマッサージ、テレビ前に置かれたソファで会話されたりと個々の空間作りに努めています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個室にて提供させて頂いています、入所前、後と思いで私物やご家族のお写真、制作物、又居室内での安全な移動スペース作りなどゆっくりとした時間が過ごせるよう支援しています。	ベッドはリースで持ち込みは少なく整然としていますが、地元天竜の床板を使用して木のぬくもりに包まれた居室です。レクリエーションでの成果品を直接貼りつけることができる壁をいっぱい使用する人もいました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共有スペースでの表示を少なくし、なるべくお一人で施設内を把握しご利用して頂けるよう援助しています。		